

第5回 道の駅よこはまエリア事業推進協議会 議事要旨

日時：平成30年3月12日（月）14:00～15:30

場所：ふれあいセンター大集会室

【活動報告（ミニイベントについて）】

- ・ 今年には毎月、内容を変えてイベントを実施した。
- ・ 冬期間は、売上げが落ち込むため、イベント期間を2週間にしたりするなどして集客を試みた。（ひな祭りに、最近家庭で見なくなった7段のひな壇を飾るなど）
- ・ イベントだけでは集客につながらず、産直の野菜など買ってもらったついでにイベントに立ち寄ったという人が多かった。
- ・ イベントだけが目的で道の駅を訪ねるといふふうになるくらいに定着するようにがんばる。
- ・ 夕刊にイベント告知のチラシを入れたこともあったが、見なかったなどの声も聞かれたので、広報を来年度は工夫したい。
- ・ イベント開催の時に、新商品も作り販売したが、そのうち数商品は通常販売品として定着した。

【活動報告（農産物集荷宅配サービスについて）】

- ・ 8月～2月まで、道の駅サポート集団「ぐるっと隊」を週3回稼働し、農産物の集荷サービスのほか、移動販売、配送サービスを実施した。
- ・ 実際は、稼働日以外もサービスを実施しており、毎日稼働するのが理想と思われる。
- ・ このサービスは、道の駅の売上げに直結するので、道の駅が主体でやれるのが理想と思う。
- ・ 現在は2名体制でやっているが1人でも対応可能だと感じた。
- ・ 集荷には自家用の軽自動車で移動しているが、容量が小さいため、一軒の集荷で満載になり、もう回れないという事態にもなったこともある。
- ・ 他の産直の集荷サービスの見学に行ったが、サービスのおかげで、車を運転しないような高齢者も野菜が出荷でき、結果、お金も入ってくるので、生き生きと働いているのが印象的だった。
- ・ 移動販売は、道の駅の新商品で宣伝の場にもなった。

⇒ 荷物がいっぱい集荷できなくなると説明があったが、どういった状況か詳しく知りたい

⇒ 集荷する野菜をコンテナに詰めるが、コンテナが多いと、1軒の集荷で車が満杯になり、一度道の駅に運び、また集荷に向かうなど非効率になる

【各施策説明（平成29年度取組状況及び来年度取組予定について）】

- ・ 資料2により、今年度取り組んだ内容と来年度の取組内容について説明があった。（詳細は資料を参照）

【規約の改正について】

- ・ 任期を平成 30 年 3 月 31 日から平成 33 年 3 月 31 日に延長する。
理由：ハード整備の事業最終予定年度が平成 32 年度となっているため

⇒ 全員異議なし

【八工大武山教授より意見】

- ・ 先日の鰯の問題で横浜町が注目されている。マイナスのイメージではあるが、ピンチをチャンスに変えて頑張ってもらいたい。
- ・ 例えば、ボランティアで来た人に御礼として、横浜温泉に無料利用してもらおうとか、食事処の PR をしてみるとか。
- ・ イベントは、年間計画を策定しちゃうとか、毎週、道の駅に行けば何かがやっているという風習づくりが大事かと思う。
- ・ いろんなことに挑戦するのはいいが、費用と効果を見極めてやっていくこと。また、成果が出るまで時間が掛かる事業もあるので場合によっては継続も大事。
- ・ 強みを活かして行くことも必要かと思う。個人的には道の駅で蜜蝋を買いたい。中国人観光客が増えているのであれば乾燥なまこを売るなど横浜町らしさを出した販売をしてはどうか。
- ・ 地方ではコミュニティバスや路線バスに住民の足を確保するために税金を投入することもあるが、集荷サービスがペイしないという話があったが、こういったサービスに投資していくことも必要かなと思う。

【弘大平井准教授より意見】

- ・ 平成 32 年度までに協議会を続けていくなら、それまでのロードマップを掲げて、それに向かって取組を行っていった方がよい。
- ・ 当初は、下北半島縦貫道路の全線開通後に通過点になることへの対策をしようと言っていたが具体的には何をやるのかなど、方向性を共有する必要がある。
- ・ 地域福祉について、高齢者のニーズはどこにあるのか。今後の高齢者のニーズの推移はどうなると考えているか
- ・ 武山先生も言っていたが、鰯の問題をピンチではなくチャンスと捉えてほしい

⇒ 福祉については、高齢者の人数の推移等を再度担当課で確認して対策を考えたい。

⇒ 鰯の問題は、町としてボランティアを呼びかけていなかったが、ありがたいことに新聞社が募集の記事を掲載してくれた。ボランティアの半数以上は地元の人だった。ボランティアの人には豚汁を提供しており、14 日の回収日にはカレーライスを提供する予定

以上